

町内一斉ノーテレビデー一周年記念講演会 パート1

## 今、子どもものの脳が危ない！

1月24日、総合福祉センターいこい荘でメディアが子どもにも与える影響について考える講演会を開催し、保護者や関係者ら約100人が参加しました。

## 体験発表

「わが家のノーテレビデー奮闘記」

保護者代表

吉田健一郎さん

手島千冬さん



「PTA役員仲間で声掛け合っ  
はじめたことがきっかけ」  
と語る手島さん

## 講演

「テレビ・ビデオ・コンピュータ

ゲームが子どもの心にも与える影響」

講師 川崎医科大学名誉教授

片岡直樹さん

小児科医としての経験から、テレビ漬けの環境で育ちコミュニケーション障害を起こしていた乳幼児の映像を紹介され、映像・光・音が与える刺激が子どもの脳の発達をどれだけ阻害しているのか警鐘されました。また「ゲーム脳」の怖さについて紹介され「10歳以下にテレビゲームをさせない」、「ゲームを長時間

ノーテレビデーの取り組みについて、吉田さんは「子どもが見たい番組を選んで見る、また、テレビの内容に疑問をもちながら見る見方をさせている」、手島さんは「家庭に静けさが取り戻せた。つけっぱなしでしながら勉強、ながらご飯」がよくないことという気付きがあった」などの体験談を紹介されました。



多くの症例から警鐘を  
鳴らす講師の片岡先生

している人と認知症の脳の状態が酷似している」と、テレビ・ゲームとの長時間の接触が危険であること話をされました。「子どもの脳は親によつてつくられる」「赤ちゃんのためには静かな環境と対話が最適」として、2歳までは特に静かな環境の中で人と関わりあつて育てることが大切、と語られました。

また最近、学歴が高くても社会の中で適応できない若者が増えていることを危惧され、「自然と人とのなかで五感を育むことが一番必要。自然の中でこそ人としての魂が育つ」ことを強調されました。

参加者の感想から、  
テレビと向かい合い成長していくことの恐怖を映像を見た時、いろいろな可能性を親が壊していると思つた。親として子ども（赤ちゃん）に対しても真剣に対話して語りかけ、同じ行動を共にすることが大切だと思つた。今からでも遅くない！少しづつの家庭の取り組みにより将来の子どもたちが生きていく為の大切な五感が身につけられると思ひました。早速今日から取り組み努力をしたいと思ひます。

## 会見小学校

## 巨大「ふるさとカルタ」が完成

会見小学校地域協働学校（コミュニケーション・スクール）の共同制作部が中心となつて作成していた巨大「ふるさとカルタ」（A3サイズ）がこの度完成し、3学期の始業式に子ども達に手渡されました。

48枚の絵は、写真を見ながら6年生が下描きをし、全校児童で色塗りをしました。読み札には、会見地区の文化や歴史を子ども達に伝えたいという地域の大人の願ひがこもつています。

子ども達は、このカルタを使って1月29日に巨大カルタとり大会を行い、楽しみました。



カルタは1枚1枚手作りです